

農業活性化のための 産官学民連携体制の構築と地域貢献事業の試験的実践

藤井さやか(システム情報系・講師)・大澤義明(システム情報系・教授)・村上暁信(システム情報系・准教授)

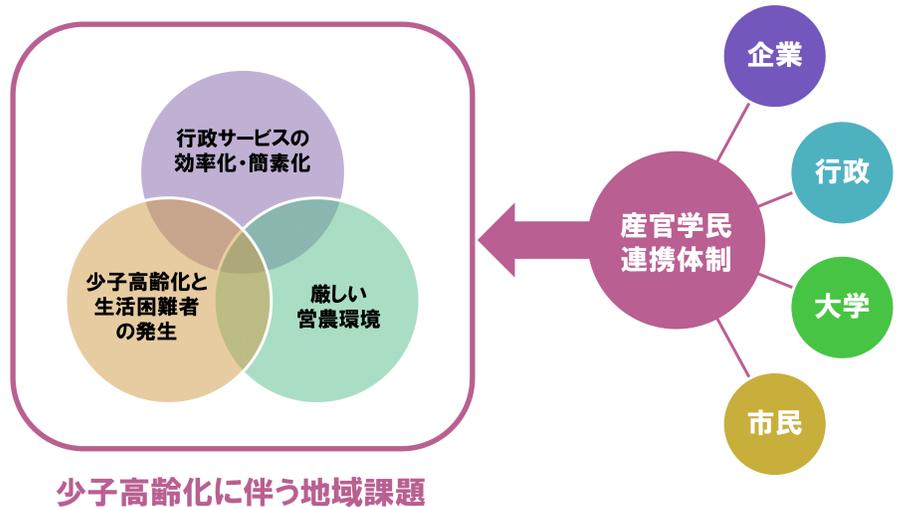
1. 事業の概要

近年の急激な少子高齢化の進行や都心部への人口回帰により、高度成長期に建設された郊外住宅地や農村集落などで、日常生活に困難を抱え、支援が必要な高齢層を中心とした居住者が増えている。

中でも農村集落では、食料生産という重要な役割を担っているにもかかわらず、生産者に価格決定権がない農作物流通システム、原価割れと所得補てんの恒常化、農業者の高齢化と後継者不在、国内食料需要の縮小、耕作放棄地のための社会コスト増大など、様々な要因が複雑に絡み合う構造的問題を抱え、農業の現状と将来展望は非常に厳しいものとなっている。

一方、行政は限られた財源の中で行政サービスを効率化・簡素化していくことが求められており、上述した高齢化地域での生活機能の弱体化や農業再生に対して、従来のような直接的政策・事業の実施や補助金支給による解決を図ることが難しくなっている。

本事業では、このような認識のもと、地元の産官学民（企業・行政・大学・市民）が力を合わせて地域課題を解決する体制を整え、問題の解決に取り組むこと、さらに将来地域に貢献する人材を育成することを目的とし、地元つくばの地域課題解決を目的とした大学院演習を通じた実態調査、まちづくり提案、ワークショップ、事業連携を行った。



少子高齢化に伴う地域課題

2. 事業成果の概要

本課題では農業再生をターゲットとした事業を推進予定であったが、福島第一原発の事故を受け、福島県や茨城県の農産物の放射能汚染が問題となり、2010年度に実施したような農業を前面に出したテーマでの産官学民連携ワークショップを実施することは、影響の深刻さや専門性の高さ、問題に対する揺れ動く世論の状況などもあって時期的に困難であった。そこで、プロジェクト関係者が推進する農業支援のプロジェクトと緩やかに連携しつつ、本事業のもう一つの側面である少子高齢化が進行する地域の生活支援を主軸として、調査とまちづくり提案等を行った。

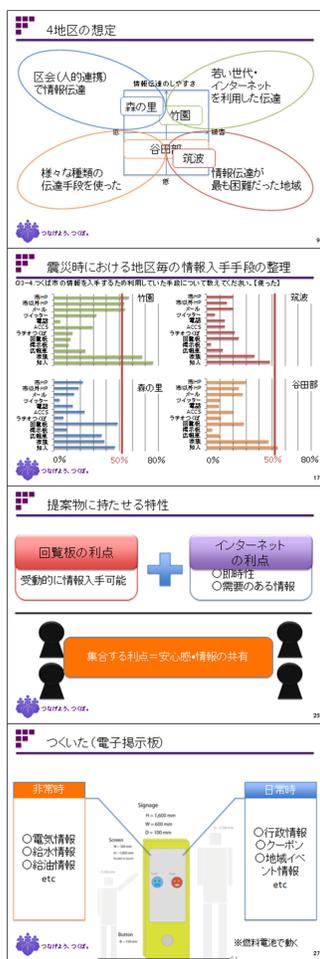
(1) 東日本大震災時における生活困難状況に関する調査

つくば市の震災被害は相対的には小さかったものの、断水や停電などのインフラ停止を経験し、市民生活に大きな混乱があったことから、市内の被害状況、とりわけ高齢化の進む住宅地での被害状況や生活支援ニーズを把握するため、システム情報研究科社会システム工学専攻・経営政策科学専攻開講の大学院演習「都市空間のフィールドワーク演習」にて、被害状況や情報伝達に関する市民アンケート調査を実施した。

大学院演習では、これらの結果を踏まえ、インターネットと直接交流のよさを活かした電子情報掲示板システム「つくいた」構築の提案を行った。この成果は、2011年7月2日（土）につくば市役所で開催したまちづくり提案発表会にて、関係者や市民に向けて発表し、多くの反響をいただいた（出席者約30名）。その後、つくば市情報政策課やインテルとともに、三者連携事業の一つとして、システムの導入の検討を行った。費用等の面で実現に至っていないが、引き続き検討を続けていきたい。



2011年7月2日（土）まちづくり提案発表会の様子（つくば市役所にて）



(2) まちづくり実践講座の実施

2012年2月25日には、まちづくりの担い手を育成するつくば市都市計画課主催のまちづくり実践講座において、申請者及び大学院生とともに、市民向けのまちづくり手法講義を行った（出席者20名及び学生4名）。講座では、地域連携に資する人材育成を目指し、多様な主体の意見を引き出し、まとめるためのワークショップを体験するプログラムを提供した。

(3) 農業支援プロジェクト（産直事業と体験農園事業）

2010年度の提案プロジェクトがベースとなり、ごきげんファームにて各種事業が展開されている。産直事業については、原発事故後の農家支援を目的とした「いばべじ・ふくべじ」プロジェクトが運営されることになった。体験農園事業では、事業者の事情により、既存の農園が廃止されることになったが、関係者の尽力により、2012年度からごきげんファーム内に場所を移し、ごきげんガーデンとして再スタートしている。これらの取り組みについてごきげんファーム代表の五十嵐立青氏、インテル社井戸英二氏に、2011年12月19日に総合科目「都市・地域・環境を探るⅢ」の講義内でご紹介いただいた。



2011年12月19日（月）総合科目の様子

3. 地方自治体等との連携

2010年度に続き、本年度もつくば市役所関連部署（都市計画課、市民活動課、情報政策課等）には、調査や事業の実施に関して、多くの支援を得た。調査結果やまちづくり提案の内容は、関係者にフィードバックし、各種施策に活用いただいている。

農業関連ではごきげんファーム<http://www.gokigenfarm.org/>との連携によって、事業の実現が進んでいる。

本年度の各種調査の実施に際しては、インテルから支援いただいた奨学寄附金を活用させていただいた。

4. 今後の展望

震災から1年がたち、つくば市での生活は落ち着きを取り戻したように思われる。しかしながら、少子高齢化は着実に進行し、農業の問題も、依然、未解決のままである。今後は、社会貢献プロジェクトの枠を外れるが、産官学民連携による地域課題の解決をめざし、大学院生演習や卒業論文・修士論文での調査等を通じたプロジェクトを継続していく。

2012年度はつくば市都市計画課、営繕・住宅課、企画課等と連携し、少子高齢化の進む住宅地の実情把握と支援策の検討を行う。農業支援ではごきげんファームとの連携関係を継続し、事業支援を行っていく予定である。

本事業にご支援いただいた多くの皆様に心より感謝申し上げます。